

航空事故調査の経過報告について

平成22年 5月28日
国土交通省 運輸安全委員会

平成21年2月20日（金）、成田国際空港の南南西約174kmの上空で発生した、ノースウエスト航空所属ボーイング式747-400型N676NWの航空事故については当委員会において、発生以来鋭意調査を進めてきたところである。

これまでに事実調査についてはほぼ終了しているが、更に調査・解析を進めるとともに原因関係者からの意見聴取及び調査参加国に対する意見照会を実施するため、最終的に報告書を取りまとめるまでに、なお時間を要すると見込まれるので、本事故の概要及び本事故調査の経過を報告し、公表することとした。

なお、本経過報告の内容については、今後更に新しい情報や状況が判明した場合、変更することがあり得る。

有効期限
総飛行時間

2009年3月9日
11,631時間00分

2. 航空事故調査の概要

運輸安全委員会は、平成21年2月20日、航空事故としての通報を受け、本事故の調査を担当する主管調査官ほか2名の航空事故調査官を指名した。その後、事故発生場所が公海上であることが判明したことから、国際民間航空条約第13附属書に基づき、同機の登録国である米国が調査を実施する責任を有することとなったが、当委員会は既に初動調査を実施していたことから、米国より調査の委任を受けた。本調査には、事故機の登録国、運航者国、設計国及び製造国である米国の代表が参加している。

現時点までの主な調査は、以下のとおりである。

- (1) 機体調査
- (2) 関係者からの口述聴取
- (3) 飛行記録装置（DFDR）及び操縦室音声記録装置（CVR）の記録の解析
- (4) 関連気象資料の解析
- (5) 負傷者の救難に関する調査

3. 事実情報

これまでの調査により判明した本事故に関する事項は、以下のとおりである。

(1) DFDRによる動揺の記録

同機のDFDRには離陸から着陸までの記録があった。離陸後、巡航高度から降下を開始するまでの間に、機体の動揺を示す垂直加速度の記録に大きな変化はないが、降下を開始したのちの11時44分53秒から約2秒の間に、垂直加速度が1.36Gから-0.52Gとなり、再度1.70Gとなる顕著な変化があった。その後動揺の変化は減少しつつも、着陸するまでの間に断続した動揺があった。

(付図2 DFDR記録 参照)

(2) 気象に関する情報

2月20日09時のアジア地上天気図によると、発達中の低気圧が東海付近と日本海中部にあり、ともに東進していた。南西諸島に伸びる寒冷前線を伴った東海付近の低気圧は、北東に進む予想であった。機長は、マニラ国際空港の出発前に、成田国際空港の気象が悪化する予報及び着陸のための降下時に動揺の可能性があるという情報を入手していた。

同日12時の国内悪天解析図によれば、高度35,000ftに中国の華中か

ら日本の中国地方を経て関東南部を東へ伸びる風速170ktのジェット気流が解析されていた。

(付図3 アジア地上天気図、付図4 国内悪天解析図 参照)

- (3) 同機が、ACARS (航空機と運航会社のホスト・コンピューターを結ぶデータ通信設備) により航行中に受信した乱気流情報

11時30分、アンカレッジから成田向けの同社905便からの、FL200~6,000ftの間にライトからモデレートの動揺があり、6,000ftから着陸までの間にライトの動揺があるとの報告を受信していた。

- (4) 医学に関する情報

救急車による搬送者数は43名であった。

- ① 重傷：乗客4名

負傷の部位・程度：肋骨多発骨折	1名
頸椎椎体剥離骨折	1名
頸椎椎体骨折	1名
胸椎圧迫骨折	1名

- ② 軽傷：乗客27名、乗務員7名

(付図5 重傷者の機内位置 参照)

- (5) 救難に関する情報

同機の運航を管理する同社の成田コントロールセンターは、同機から乱気流による負傷者2名が発生したとの連絡を受けて、12時11分、救急車1台を要請した。

12時19分、同機は成田国際空港に着陸した。待機していた救急隊員が機内に入って多くの負傷者が存在する状況を確認し、救急隊の追加要請を行った。15台の救急車により延べ17回の病院への搬送を終えたのは、15時54分であった。

- (6) 航空機の損傷

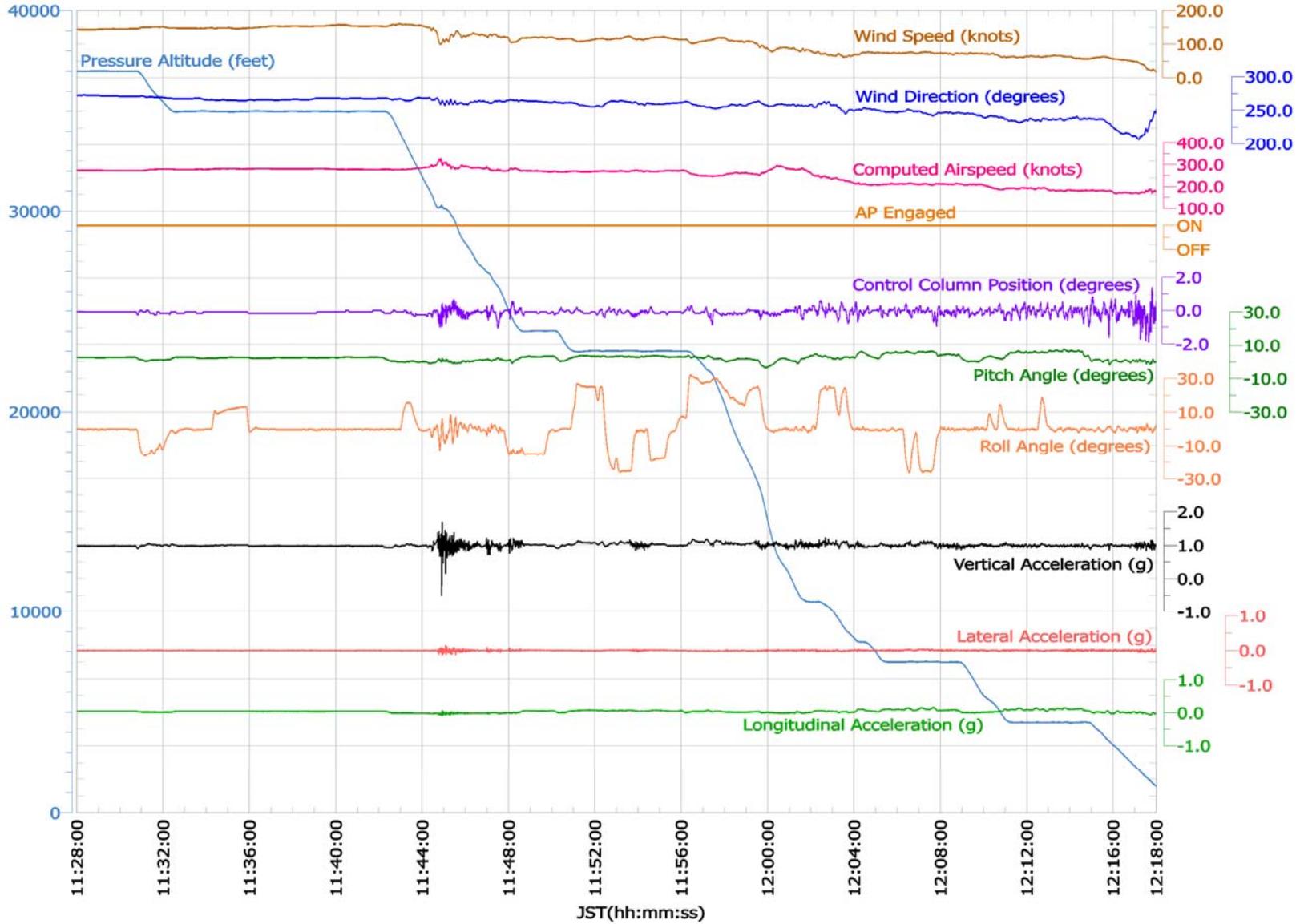
客室内天井部のカバーの損傷、客席アームレストの損傷及び化粧室天井部のき裂破損があった。

(写真1 損傷部 参照)

4. 今後の調査事項

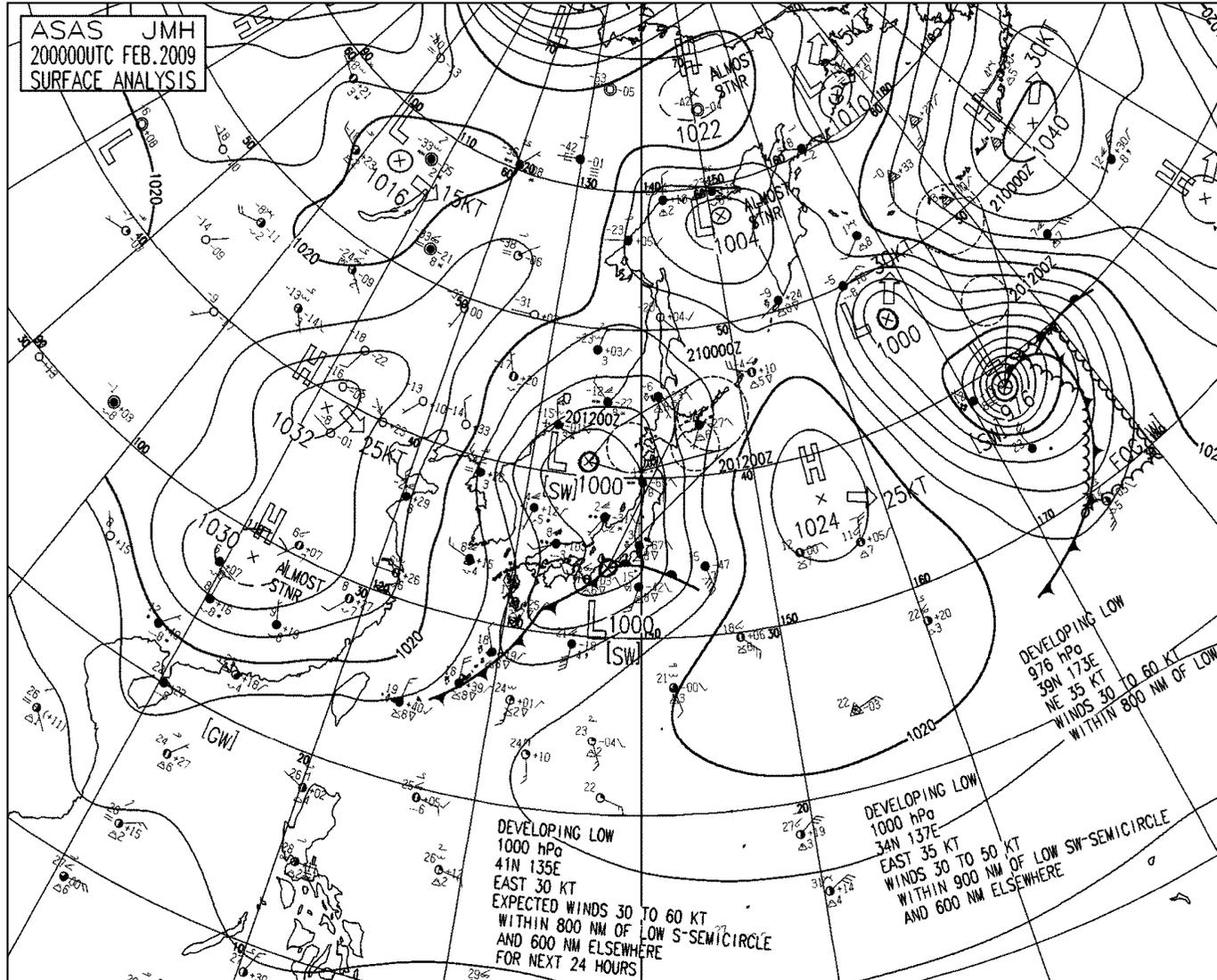
- (1) 気象の精査
- (2) 機内状況の精査
- (3) その他

付図2 DFDR記録



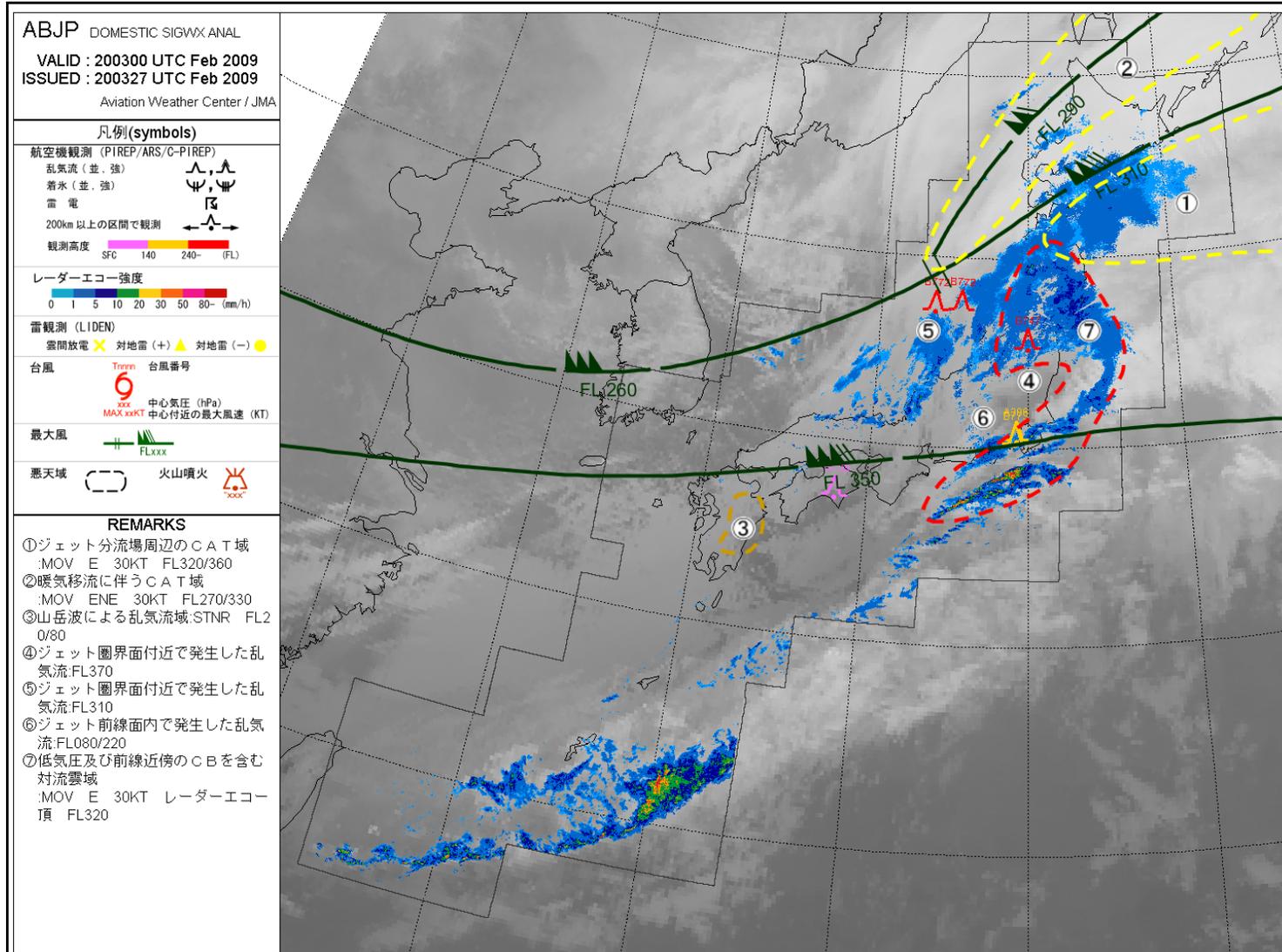
付図3 アジア地上天気図

平成21年2月20日09時



付図4 国内悪天解析図

平成21年2月20日12時



付図5 重傷者の機内位置

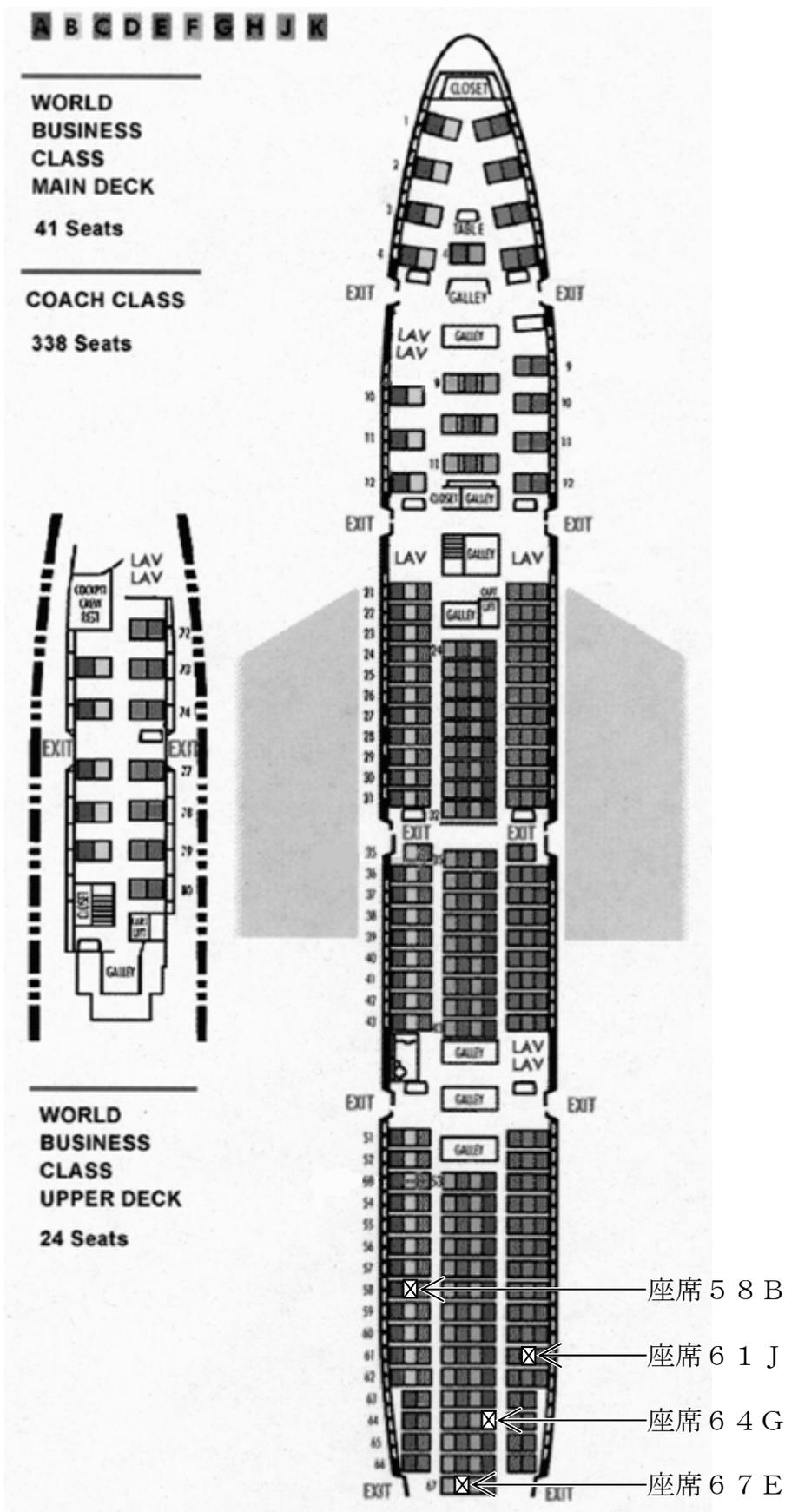


写真1 損傷部

客室天井部の
カバーの損傷



客席アームレスト
の損傷

化粧室天井部の
き裂破損

